

- I. テーマ：「フィリピン大学図書館の見学報告と、  
インドネシア、シンガポール、韓国の図書館との比較」
- II. 調査先：①2012年8月14日 フィリピン  
・サウスウェスタン大学 (Southwestern University)  
<http://www.swu.edu.ph/>
- III. 比較する図書館
- ① ガジャ・マダ大学 (インドネシア) (Gadjah Mada University)  
<http://www.ugm.ac.id/>
  - ②シンガポール・ポリテクニク (Singapore Polytechnic)  
<http://www.sp.edu.sg/wps/portal/vp-spws>
  - ③ソウル大学 (韓国) (Seoul National University)  
<http://www.snu.ac.kr/>
- IV. 報告内容：
- 1.はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
  - 2.フィリピン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2-5
    - 2-1.フィリピンの教育制度
    - 2-2.サウエウエスタン大学
  - 3.フィリピンとインドネシア、シンガポール、韓国の図書館との比較・・6-8
    - 3-1.ガジャ・マダ大学 (インドネシア)
    - 3-2.シンガポール・ポリテクニク
    - 3-3.ソウル大学 (韓国)
    - 3-4.各図書館の比較
  - 4.参考文献・URL・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

## 1. はじめに

2012年8月13日から21日にフィリピンを旅行した中で、セブ市にあるサウスウェスタン大学の図書館を見学する機会を得た。奉職先の文教大学に入職した2012年4月以降に見学した同大学図書館を報告の対象とするが、東アジア地域の他の図書館の比較として、入職前の2011年12月22日から2012年2月28日の旅行の中で見学した、インドネシア、シンガポール、韓国の図書館についても述べる。

2010年に日本のTPP(環太平洋戦略的経済連携協定)への参加検討が表明されるなど、東アジア各国との関係が密になっていく中で、それらの国の暮らしの様子、教育や図書館について知りたいと思ったことが上述の国を訪れたきっかけである。

## 2. フィリピン

### 2-1. フィリピンの教育制度

初等教育6年間、中等教育4年間の後に、高等教育として大学が設置されている。中等教育の教育年限は短い、高等教育の在学率は男性25.7%、女性31.8%と、発展途上国の中では比較的高い数字となっている。

フィリピンの教育の特色として実学志向があげられ、大学では、教養よりも専門教育が重視される。専門職として認定されるには、大学での専門教育に加えて、職業ごとに行われている国家試験に合格することが求められる。同様に、図書館専門職においても1990年から国家試験制度が導入され、大学か大学院で、図書館情報学の学士号、もしくは修士号を取得していることが受験資格となる。

実学志向の現れとして、学士課程の就学年限が通常の4年間よりも長く設定されている分野がいくつかある。医学8年、獣医学6年、歯学6年、工学5年、建築学5年、法学8年などがそれである。

言語については、英語とフィリピン語が一般教養科目として設定されており、教授言語としてもその2つが使用されている。

また、私立機関への依存度が高いことも特色としてあり、2002年の統計では、1,479校の内、1,305校が私立機関である。

## 2-2. サウスウェスタン大学

### 2-2-1. 基本情報

1946年に設置されたセブ市にある私立大学で、歯学部/臨床検査学部/自然科学学部/看護学部/薬学部/理学療法学部/獣医学部/教養学部/コンピューター学部/犯罪学部/教育学部/工学部/海洋学部/ビジネス学部/法科大学院/医学院などから構成される総合大学。学部は、大きく、医学系と非医学系にわけられる。薬剤師の夫婦により創立されたこともあり、フィリピン内では医学系の大学として有名。

10,000人以上の学生を抱え、日本も含め25カ国からの留学生を受け入れている。セブ市のほとんどの大学には制服の着用義務があり、医学系の学生は白衣を、非医学系の学生は学校指定の制服を着用している。その為、現地の人間であれば制服からこの大学の学生か判別できる。

### 2-2-2. 見学内容

#### <a. キャンパス内への立ち入り>

事前の予約をとらず飛び込みの訪問であった為、サウスウェスタン大

学の前に訪問した 2 つの大学では立ち入りが叶わなかった。セブ市内の大学はセキュリティが厳しいようで、数か所ある入口には守衛が 3〜6 名程度待機していて、身分証の確認を行っていた。サウスウェスタン大学では、パスポートの確認を受けた後、立ち入りの許可を得ることが出来た。

図書館機能はキャンパスの南側と北側に配置され、南側の図書館機能はキャンパス内で最も大きな建物の中にあり、学生が密集するエリアとなっている。こちらの建物は主に医学系の学生に使われているようで、白衣を着用した学生の姿が多かった。

北側の建物は老朽化が進んでおり、入口の看板の文字が欠けていた。入口の目の前が構内道路になっており、数台の車とすれ違ったが、路肩が狭く、危険を感じる。

建物内には、Main Library, Graduate school Library, Engineering & Maritime Library, Law Library, Filipiniana Library など、主題別にわけられた Library がいくつかある。上述したほかに、医学系の Library や PC ルームがあったが名称は確認できなかった。Main Library や図書館のディレクタールームなど、図書館としての主機能は北側に配置されている。(写真 1,2) (写真 1 南側の図書館がある建物)



(写真 2 北側の図書館がある建物)



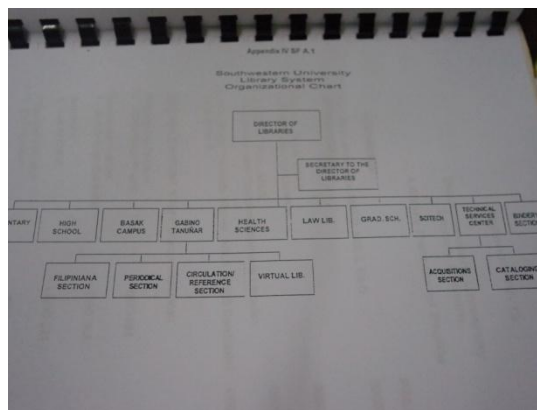
### <b.ディレクターとの面会>

立ち入り後、北側にある Main Library のカウンタースタッフに見学と撮影希望の旨を伝えるとディレクタールームに案内され、ディレクターと面会することができた。

蔵書冊数や年間の貸出冊数について質問すると、図書館から発行されている、年間の活動をまとめたレポートを見せていただき、暫く、その資料を眺めて過ごした。

資料の中に組織図があり、同様の組織図の、職員の顔写真入りの A1 サイズ程のものが利用者スペースに張り出されている。司書 9 名、サポートスタッフ 16 名、学生スタッフ 21 名、用務員 1 名によって構成されている。(写真 3)

(写真 3 図書館の組織図)



### <c.図書館発行の年間レポートの内容>

蔵書冊数は約 80,000 冊あり、内訳は、応用科学分野が約 15,500 冊と最も多く、歴史：約 11,000 冊、言語学：約 10,000 冊、文学：10,000 冊、フィリピン関連：約 9,400 冊、社会科学：約 8,000 冊、芸術音楽：約 7,000 冊、小説：約 6,200 冊、純正科学：約 6,000 冊、と続いている。年間の受け入れ冊数は、2005 年-2006 年：1,234 冊、2006 年-2007 年：516 冊、2007-2008 年：996 冊、2008 年-2009 年：1,427 冊、2009 年-2010 年：1,368 冊と、年によってばらつきがあるのが伺える。

2010 年の年間貸出件数は約 19,500 件で、レファレンス受付件数は約 17,500 件となっている。蔵書規模、受け入れ冊数からするとよく使われている印象があり、実際、図書館にいる学生の数も多い。

資料の購入は図書が中心で、逐次刊行物の予算は図書予算の 10 分の 1 程度の規模であることが資料から読み取れた。電子ジャーナルやデータベースについての予算情報は確認できなかった。

### <d.検索・貸出>

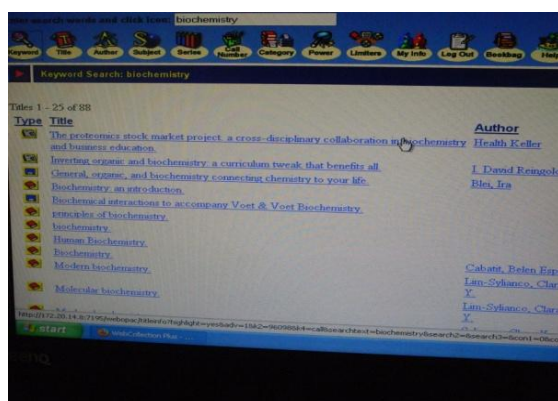
各 Library の入口脇に貸出カウンターがあり、学生スタッフが待機している。OPAC からの所蔵検索は可能だが、貸出処理の電子化はされていないようで、手書きの台帳で貸出処理を行っている。目録カードの収納棚も見受けられた。

貸出カウンターの他に、各 Library にレファレンスカウンターがあり、そちらでは正規の職員が待機できるようになっている。席を外しているレファレンスカウンターもいくつかあった。(写真 4,5)

### (写真 4 貸出カウンター)



### (写真 5 OPAC 画面)



### <e.閲覧席>

個人机は少なく、長机の数が多かった。ペットボトルを持ち込んでいる学生が数名おり、飲み物の持ち込みは禁止されていない様子である。空調については天井のファンと扇風機に頼っている。(写真 6)

### (写真 6 閲覧席)





#### <f.書棚, 装備>

新着資料用の棚が設けられているが、傷んでいる本がいくつかあったので、中古品も受け入れている様子である。

背ラベルは手書きで記入されており、分類にはデューイ十進分類法が使用されている。写真 8 で『Ref||511.8||K13||1943 C1』, 『511.8||K15』となっていることから、参考図書については、『Ref』と記述して区別している様子で、発行年については記載されているものと無いものがある。背ラベルがない資料も見受けられた。

また、入口にゲートが設置されていないことから、セキュリティタグ等の盗難対策としての装備はされていないと思われる。(写真 7,8)

(写真 7 新着棚)



(写真 8 背ラベル)



#### <g.配架>

全体的にきれいに配架されている印象だが、医学系の図書館では低書架に資料が山積みになっている様子が見受けられた。医学系の Library が一番学生の数が多く、山積みになった中から資料を手にとっていく学生の姿も見られた。(写真 9)

(写真 9 医学系 Library の低書架)

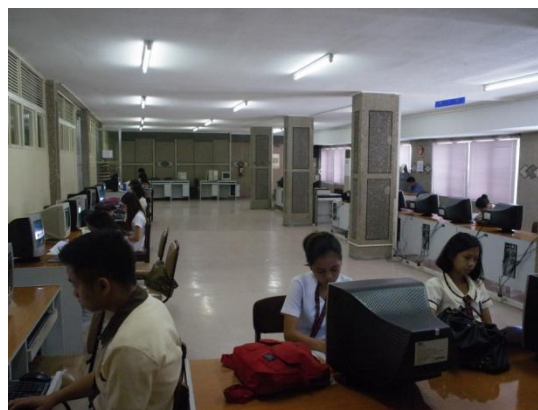


#### <h.PC ルーム>

北側のディレクタールームの隣に PC ルームがある。壁や窓際に沿うように端末が配置されている為、中央のスペースがあいている。ブラウン管式のディスプレイを使用していること等から、古い機器を使用している印象を受けた。

また、他の Library とは違い、PC ルームはエアコンが効いていた。(写真 10)

(写真 10 PC ルーム)



### 3. フィリピンとインドネシア,シンガポール,韓国の図書館との比較

#### 3-1. ガジャ・マダ大学 (インドネシア)

##### 3-1-1.基本情報

1949年にジョグジャカルタ (ジャワ島) に設置された, インドネシアで最も古く最も大きな国立の総合大学。2012年のQS大学ランキングではアジアの中で118位。約54,000人の学生を抱え, 理学部/経済・ビジネス学部/薬学部/哲学部/地理学部/法学部/文化学部/政治・社会学部/医学部/歯学部/獣医学部/森林学部/理学部/農学部/動物学部/工学部/農業工学部/心理学部の18学部で構成されている。

2つの図書館があり, 中央図書館は1951年に設置された。蔵書冊数は, 図書が約120,000冊, 雑誌が約2,700タイトル, オンラインジャーナルが約4,000タイトル。

##### 3-1-2.見学内容

###### <a.大学全体>

敷地が広く, 多くの学生が車で構内を移動する為, 校内道路が整備されている。二輪車も多い。開放的な屋外ラウンジは主食から軽食まで揃っており, 日本の祭りの露店のような雰囲気。(写真11,12)

(写真11 構内地図)



(写真12 構内道路)



###### <b.図書館>

資料管理・貸出は電子化されており, カウンターのPC画面上で, その日の貸出状況を円グラフで見ることができる。書架・閲覧席の様子, 古い目録カード収納箱が脇に置かれている様子等, 日本のオーソドックスな大学図書館といった印象。(写真13,14)

(写真13 閲覧席)



(写真14 PCゾーン)





## 3-2.シンガポール・ポリテクニク

### 3-2-1.基本情報

1954年にシンガポールで初めて設置された国立のポリテクニク。17,000人の学生を抱え、ビジネス/化学/ライフサイエンス/コミュニケーション/芸術/社会科学/デジタル・メディア/電子工学/機械工学等、85のコースが設置されている。

図書館はメインライブラリーとヒルトップライブラリーの2館がある。

### 3-2-2.見学内容

#### <a.エントランス付近①>

色使いが統一され、全体的にポップな印象がある。入館してすぐ目に入る位置にiPhone, iPadが設置され、利用者が最新機器に触れられる機会を提供している。盗難防止としてワイヤーでつながれている。

iPhone, iPadなどのタブレット型端末からは、蔵書検索、新着資料の確認、図書館のYouTubeチャンネル視聴、貸出の延長、E-BOOK・過去の試験問題の閲覧、図書館員への質問といったサービスが受けられ、のぼり旗でPRされている。(写真15,16)

(写真15 のぼり旗)



(写真16 iPhone, iPad)



#### <b.エントランス付近②>

カウンター前のスペースで学生の研究内容の紹介展示が行われており、ソーラーシステムに関する研究がモニターと模型で紹介されている。(写真17)

貸出端末がカウンター横に、返却端末が外の入口横に設置されている(写真18)

(写真17 学生の研究内容の紹介展示)



(写真18 貸出端末)



### 3-3. ソウル大学(韓国)

#### 3-3-1. 基本情報

1946年に韓国で初めて設置された国立大学。約28,000人の学生を抱え、16の単科大学、10の大学院から構成されている。

2012年のQS大学ランキングではアジアの中で4位となっており、韓国の中では1位。同ランキングで一番順位の高い日本の大学は8位の東京大学。

図書館は中央館と7つの分館からなり、蔵書冊数は、図書3,500,000冊、雑誌10,000タイトル、電子ジャーナル33,000タイトル、非図書資料88,000冊。

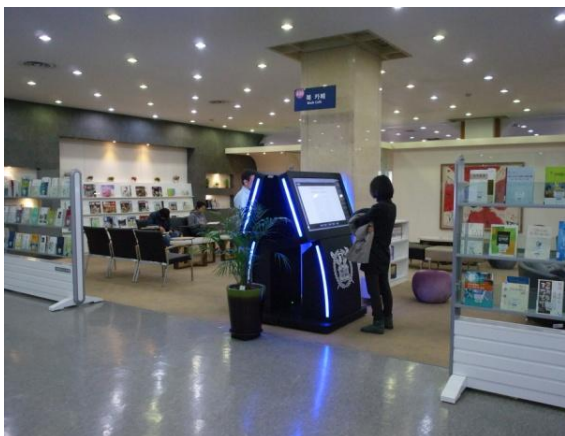
#### 3-3-2. 見学内容

##### <a. 入館, エントランス付近>

入館ゲート脇に学生アルバイトが配置され、身分証の確認を行っていた。入館時は、ゲートの外にあるコイン式のロッカーに荷物を預け、入館証をゲートに通して入館する。今回は、ビジター用の臨時許可証を発行して頂いた。

入館ゲートの目の前に、娯楽雑誌やマンガ、ソファがあるくつろぎエリアがあり、中心に新聞閲覧用の大型タッチパネルが設置されている。(写真19,20)

(写真19 くつろぎエリアを外から撮影)



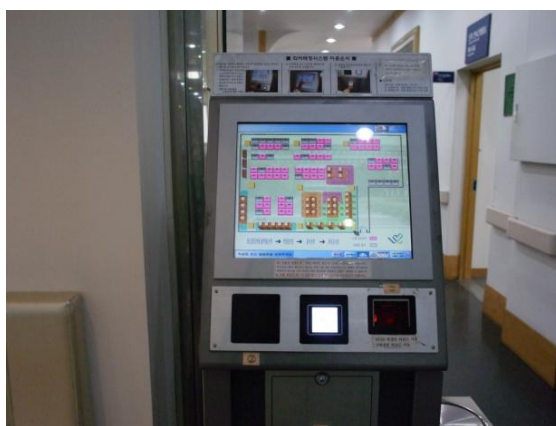
(写真20 くつろぎエリアを中から撮影)



##### <b. PC エリア>

くつろぎエリアの奥にPCエリアがあり、エリアの入口に設置された専用端末から席を予約する仕組みになっている。予約には学生証が必要。(写真21,22)

(写真21 PC 席予約機)



(写真22 PC エリア)





### 3-4.各図書館の比較

それぞれ,学校規模,主題の異なる図書館であるため,比較対象として適しているとは言いが,東アジア地域の図書館の違いを感じる参考になればと思い考察する。

フィリピン,インドネシアについては一昔前の日本の大学図書館といった印象があり,書架,閲覧席,貸出カウンター,レファレンスカウンターが主な機能として設置されている。シンガポール,韓国については,それらの従来の図書館機能に加え,グループ学習室や息抜き用のスペースが設けられ,利用者が過ごしやすい,滞在型の図書館を志向している部分があることが伺えた。電子機器については,フィリピン,インドネシアともに古く,フィリピンではブラウン管式のディスプレイが使用されていた。シンガポール,韓国では,Mac やマルチモニターが設置され,用途により使い分けることができ,タブレット端末やスマートフォンの展示,新聞閲覧用の大型タッチパネルの設置もあった。

このような面から,フィリピンの図書館は,シンガポール・韓国と比べると発展途中であると感じた。一方で,フィリピンの図書館の強みとして図書館専門職の国家試験制度が考えられ,数年間の活動の様子が報告書として詳しくまとめられている点や,図書館の組織体制が学生に周知されている点が頼もしく,職員の専門性の高さが伺えた。シンガポールにおいても,芸術や文化面の課題として「Library2000」「Library2010」といった政策が国のビジョンとして打ち出されており,国としての政策が,図書館の社会的地位,図書館への社会的要求につなが

り,図書館の発展に影響を与えることを感じた。

### 4.参考文献・URL

- ① 馬越徹編.アジア・オセアニアの高等教育.玉川大学出版部,2004,258p.,(高等教育シリーズ,129)
- ② 宮原志津子.フィリピンの図書館専門職国家試験に関する検討.相模国文.2012,39, p.83-93.
- ③ 宮原志津子.シンガポールの図書館法制と政策.図書館界.2009,60(6), p.400-410.
- ④ 総務省統計局ホームページ.  
<http://www.stat.go.jp/data/sekai/15.htm> (2012.11.25)
- ⑤ Ministry of Education,Singapore. Homepage.<http://www.moe.gov.sg/education/> (2012.11.25)
- ⑥ QS TOPUNIVERSITIES.  
<http://www.topuniversities.com/> (2012.11.25)
- ⑦ Gadjah Mada University Homepage.  
<http://www.ugm.ac.id/> (2012.11.25)
- ⑧ Singapore Polytechnic Homepage/  
<http://www.sp.edu.sg/wps/portal/vp-0spws> (2012.11.25)
- ⑨ Seoul National University Homepage.  
<http://www.snu.ac.kr/> (2012.11.25)
- ⑩ Southwestern University Homepage.  
<http://www.swu.edu.ph/> (2012.11.26)